



カリエロ 11



サレジオ会宣教ニュース

150 感謝再発進 謝考進

200 2025年 8月

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

再考

!!! カリエロ 11、200号 !!!

壁ではなく、橋を築く



現代世界—かつてないほどつながりながら、新たな対立や分裂に引き裂かれた—は、平和に共存するという夢が、遠いものに感じられるかもしれません。しかし教皇レオ十四世は、世界に向けた最初のメッセージで、大胆で希望に満ちたビジョンを差し出しました：「壁ではなく、橋を築く教会」です。私たちは宣教する教会、**対話、平和、出会いの教会**となるように呼ばれていると、教皇は私たちに語りました。その呼びかけは、サン・ピエトロ広場を超え、響き渡りました。町で、スラムや村で、キリスト者がイスラム教徒やヒンズー教徒、先住民の人々、信仰を持たない人々と肩を並べて暮らす場所で、教皇の言葉ははっきりしていました：私たちは押し付けるためではなく、差し出すためにここにいるのだと。生活し、謙遜に仕えること、**さまざまな信仰、文化、伝統を持つ人々と共に**、手に手をとって働くこと。

シエラレオネにいたとき、弱い立場の子どもたちのためのドン・ボスコ・ファンブル・プログラムで、イスラム教徒とキリスト教徒の子どもたちが、仲良く同じ屋根の下に暮らすのを見てうれしかったです。キリスト教徒とイスラム教徒のスタッフが心をつなげて、そしてドン・ボスコへの、サレジオの精神、ドン・ボスコの教育法への深い愛をもって、子どもたちに仕えています。本当の平和は、一夜にして築かれるものではありません。謙遜、開かれた心、そしてしばしば犠牲が求められます。**忍耐、勇気、深い共感**が必要です、特に、拒絶にあうとき。その道を選ぶなら、私たちは、恐れと分断の著しい世界で、皆のための家、平和と和解の学び舎となるでしょう。

● 宣教部門

ホルヘ=マリオ・クリサフッリ神父, SDB

友人の皆さん、

私たちは人生で、感謝を培うことを学びます。それは、状況が完璧に良いからではなく、一人ひとりが、希望に導かれているからです。希望は、あらゆる文化、大陸で人間の精神を支える静かなる力です。故教皇フランシスコが私たちにたびたび思い起こさせたように、「希望は果敢です；自分の都合やこの世のつまらない安全、あらゆる利己的に張り巡らされた柵を超えた先に、目を向けることができます。」

ドン・ボスコは日々、この希望を生きました。地に足をつけて、しかし心は天国にあって歩むようにと、ドン・ボスコは私たちを励まします。たとえ苦難の中にあっても揺るぐことのないドン・ボスコの楽観主義は、希望が受け身の態度ではないということ—私たちを行動へと、人々を引き上げることへと衝き動かすということを、示してくれました。不確かさのただ中で、希望の存在となりましょう、そして、神と共にあるなら、いつも光、意味があり、どのような闇も決してそれで終わることはないのだと示しましょう。私たちの希望がインスピレーションとなり、人々が立ち上がり、再び築き上げ、愛の変容させる力を信じるようになりますように。

● 宣教部門

エリック・マイルラ神父, SDB

振り返りと分かち合いのために

- 生活の中で、どのような障壁や対立を経験しているだろうか？
- 周りの人々の調和ある共生のために、私はどのように貢献できるだろうか？



第一回宣教派遣150周年の祝い



10月5日-11月13日 **Corso Germoglio 新宣教師研修**
(ローマ、コッレ・ドン・ボスコ、ヴァルドッコ)

11月8日-9日 **BeAMission - 宣教促進 イタリア、若者の集い**(ヴァルドッコ)

11月9日-13日 **管区宣教促進担当者が集う世界宣教会議**(ヴァルドッコ)

11月11日 **総長による新宣教師の派遣**(ヴァルドッコ、扶助者聖マリア大聖堂)

RASS – 多様性を尊重し、 対話を促進するネットワーク

アレックス、RASSについて、その使命と目的について簡単に紹介してくれますか？

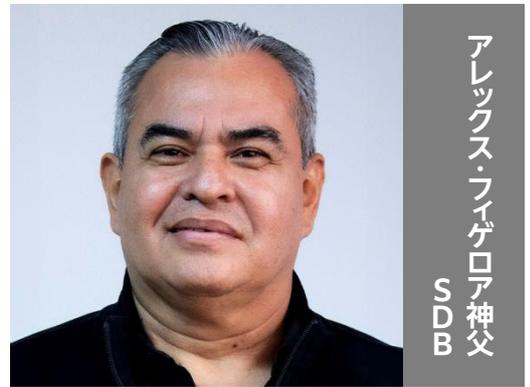
Red America Social Salesiana (RASS) は、アメリカ大陸で弱い立場や疎外の状況に置かれた青少年、若者、家庭と共に歩む、サレジオ会の社会事業や活動のネットワークです。福音の光に照らし、ドン・ボスコの予防教育法に忠実に、私たちが目指すのは、活動の明確化、育成、コミュニケーションのプロセスを強化することです。各地でこの人々に提供されるサレジオの働きを、促進し、強めるためです。

今月のメインテーマは共存です。RASSは、多様な人々が共に生きるためにどのような取り組みをしていますか？

サレジオ的なアプローチや予防教育法の現代化をはじめ、私たちのカリスマにおけるアイデンティティーは、人権と、すべての人が神の子であるという認識に基づいています。私たちの活動は、全人的成長を目指し、また一致と、私たちが同伴する人々の地上における将来を生み出すようなネットワークを築くことを目指すものです。私たちはネットワークとして、文化間交流と多様性の尊重、対話の場を広げること、耳を傾けることと参加、伝えるべきことを目に見えるものとし意識を高めさせるためのコミュニケーションの努力に焦点を当てたさまざまな育成過程を通して、各地の地元の力を強めます。私たちのカリスマの一環として、私たちが活動する環境は、さまざまな違いが、脅威ではなく、むしろ豊かさの源泉として価値を認められるような場であるように形づくられます。

宣教の次元やその表れは、サレジオの社会事業のうちどのように見られると思いますか？

アメリカ大陸のサレジオ社会事業の宣教的次元は、ドン・ボスコの初めのビジョンに根ざすものです。19世紀に、ドン・ボスコは街へ出て行き、親の保護がない、未成年労働、路上生活、非識字、栄養失調など、さまざまな危険にさらされながら生きる青少年、若者と共に歩みました；子どもたちの権利を擁護し、霊的養成を含む総合的教育の提案を差し出しました。今日、宣教精神は、サレジオのカリスマに基づき弱い立場に置かれた青少年、若者のためのプログラムや企画を実施する、180以上の社会事業のうち形を取っています。個人的に抱える困難の克服を助け、一人ひとりの生活と共同体の上に有益な社会的影響を生み出すことに寄与するプログラムや企画です。



アレックス・フィゲロア神父
SDB

サレジオ社会事業アメリカ大陸ネットワーク (RASS) ディレクター、中央アメリカ管区の「サレジオ社会事業・活動」担当者、サンサルバドルのリカルド・ネ技術訓練校校長を務める。教育、司牧、社会活動の部門にて28年にわたる経験を積む。「平和の文化における青少年による暴力予防の政策」をテーマとする修士号、神学の学位を持ち、教育論と哲学を教える。修了証：社会教育；青少年、社会、公共政策；運営のためのリーダーシップ。



フ
ォ
ー
ラ
ム

カリエロ11 第200号

第1号は2009年1月11日に発行、第200号はその16年半後に発行。

宣教部門は、5つの公用語でカリエロ11を発行(英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語)

自国語版を発行している管区もあり、現在、さらに17か国語に訳されている。

公式のEメールアドレス cagliero11@sdb.org から3000件の連絡先へ、WhatsAppから500件の連絡先へ配信されている。

8月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

再考 > 共存

サレジオ会の意向

多様な人々が喜びのうちに共に生きることを目指す宣教の働きのために、忍耐と堅忍を祈り求めます。

教皇レオの祈りの意向 > 共に生きる共存のために



社会事業で
共に働く人々